

令和元年度 福岡県農業大学校外部評価会議 会議録

令和元年度福岡県農業大学校外部評価会議議事録についてお知らせします。

1 日 時・場 所

令和2年2月17日（月）13時30分～15時30分 福岡県農業大学校 会議室

2 出席者

○外部評価者 5名出席

農業大学校元同窓会会長 進藤重徳氏、青年農業士 岡松仁氏、福岡農業高校校長 廣松隆二氏、福岡県農業協同組合中央会担い手・営農サポートセンター長 飯田真治氏、
県後継人材育室長 齋藤和裕氏

福岡県農業大学校職員 校長・副校長・教務部長・担当職員

3 審議の内容

○元年度の取組実績及び目標達成状況について

重点目標 自営就農、県内農業法人への就農

目標及び実績 就農率 目標 70% 実績 63% （目標達成度 90%）

○2年度外部評価目標

重点目標 自営就農、県内農業法人への就農

目標 卒業生、修了生の就農者割合 70%

4 意 見 概 要

○元年度実績について

・推薦入試の受験科目に数学を導入し、推薦定員を割れても不合格者を出している。農業大学校として数学が重要との方針を明確にしており、評価できる。高校でも数学・英語が苦手な生徒が多く、苦慮している。

・福岡県の特徴として、普通高校からの受験者も多い。普通高校へのPR活動として高校訪問を行っているが、今後もPR活動が必要。

・ファームプランは、農業高校とのつながりで実施してきており、農業大学校への進学につながっている。福岡農業高校専攻科と役割分担もできて、よい関係が構築されている。

・本年度の研修科修業生が少ないのは、景気に左右されることや近年の各地域・JAでの研修制度が充実してきたことによる。次年度の修業生は定員に近い応募があっている。

○2年度目標について

・GAP やスマート農業は当たり前になってくる。積極的に取り組んでいただきたい。また6次産業も取り組んでほしい。

・GAP 認証を受けるのは予算が必要。高校でも取り組んでいるが、GAPを「取る」のではなく「する」ことが重要である。学生のうちに学ぶことは必要。

- ・雇用就農につながる農業法人へのインターンシップを進めるため、法人リストを整備するだけでなく、学生の背中を押してあげる取り組みが必要である。

○その他

- ・農業大学校は、各地域で卒業生が活躍しており、ネットワークの構築が重要である。
- ・農業大学校在校時から、各地域の4HCやJA青年部とつながり、円滑な就農と就農後の自己研鑽のためにも組織に参加するような取り組みが必要である。